



そら あお 空はどうして青いの

たいよう ひかり いろ ひかり ま 太陽の光はいろいろな色の光が混じっている

たいよう ひかり いろ しろ み いろ ひかり ま
太陽の光の色は白っぽく見えますが、いろいろな色の光が混じりあってできています。
たいよう ひかり さんかくちゅう ごかくちゅう ひかり わ もの とお あか
太陽の光をプリズム（三角柱や五角柱のガラスで、光を分ける物）に通すと、赤、だい
だい、き みどり あお むらさき いろ わ たいよう いろ ひかり ま
だい、黄、緑、青、あい、紫の7色に分かれます。このことから、太陽は7色の光が混
じりあってできていることがわかります。

あお ひかり くうき すいじょうき さんらん 青い光が空気や水蒸気などで散乱する

たいよう ひかり なか あお ひかり あか ひかり あお くうきちゅう すいじょうき くうき
太陽の光の中で、青い光は赤などのほかの光より多く、空気中の水蒸気やちり、空気の
ぶんし もの せいしつ うしな ちい さんらん いちめん ひろ
分子（物の性質を失わない、いちばん小さなつぶ）などにあたって散乱し、あたり一面に広
がります。この光が目に入って、空が青く見えます。

そら いろ すいじょうき りょう か 空の色は水蒸気やちりの量などで変わる

は ひ たか やま のぼ そら いろ あお むらさき ちか いろ み
よく晴れた日に、高い山に登ると空の色がこく、青よりもあいや紫に近い色に見えると
きがあります。高い山の上は地上に比べて空気がすんでいて、ちりなどが少ないことと、あ
いや 紫色の光が散乱しやすいからです。

また、は あき そら はる くら あお み たいき あんてい くうきちゅう
また、晴れた秋の空は、春に比べて青くすんで見えます。大気が安定していて、空気中の
すいじょうき りょう すく
水蒸気やちりなどの量が少ないからです。（監修・国司 真）

